

事業実績報告書

事業の名称	志娥慶香ピアノリサイタル ～北欧・フィンランドの風景～
日時	平成31年2月27日（水）開場／18：30 開演／19：00
入場人数	関係者（48人） 入場者（189人） 合計（237人）
入場料	一般前売 2000円／当日 2500円 高校生以下前売 1500円／当日 2000円（未就学児入場不可）
事業内容	<p>申請者は熊本を拠点に置き、著名な映画作品やアーティストを支える作編曲家であると同時に、国内外で演奏活動しているピアニストである。3年前に初めて「森と湖の国・フィンランド」を訪れたのを機に、熊本の風土との共通点に魅力を感じ、フィンランドの美しい四季と大自然や、自然と共に豊かにつつましやかに暮らす人々の感覚に惹かれ毎年訪れて演奏や創作活動を行ってきた。2019年は日本・フィンランド国交100周年のメモリアルイヤーであり、本リサイタルはフィンランド大使館の後援を受け、日本とフィンランドとの文化を通じた架け橋となることを目的とした。テーマを「北欧・フィンランドの風景」とし、これまで経験してきたフィンランドの風土からインスパイアされ創作したオリジナル曲を中心に熊本市健軍文化ホールにて演奏披露した。休憩をはさんだ二部構成で、第一部はトークを交えながらオリジナル曲をソロで演奏披露した。熊本の風景からインスパイアされた「穀雨」「蘇峰」に続き、フィンランドの風景からインスパイアされたアニメソング「liquescimus」、大地の静寂と氷が張り詰める冬のイメージ作品「青いモーメント」、白夜の光に包まれた夏のイメージ作品「コケマキ川、夏の黄昏」の全5曲。第二部は雰囲気を変え、童謡ジャズという独自のジャンルで活躍中の作編曲家・ピアニスト杉本ゆみをゲストに迎えて2台のピアノで競演した。フィンランドで愛されている民謡「空は青くそして白い」「ここ北極星のもとに」「サッキヤルヴェン・ポルッカ」など全7曲を曲の紹介やフィンランドの文化についてトークをしながら独自の編曲で演奏披露した。フィナーレは「フィンランディア賛歌」で、曲中に日本唱歌「故郷」を融合し日本・フィンランド両国友好と文化交流のために発信した。</p> <p>ロビーギャラリーでは、本リサイタルの広告に使用した、写真家稲留淳による申請者をモデルとし阿蘇の四季を舞台に撮影したポートレート写真展を開催し会場に花を添えた。</p>
添付書類等	公演写真（CD-R）・チラシ・プログラム・インタビュー記事

決算書

※内訳は別紙を参照していただきますようお願いいたします。

【 収 入 】

項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)
入場料収入 (一般前売)	340,000	364,000
(一般当日)		32,500
(学生前売)	30,000	6,000
(学生当日)		0
(申請中) 熊本市健軍文化ホール 助成事業	50,000	50,000
一般財団法人熊本放送文化振興財団助成事業	100,000	100,000
物販売上収入	20,000	64,100
自己負担額	433,749	15,521
合 計	973,749円	632,121円

【 支 出 】

項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)
(1)出演費	50,000	70,000
(2)音楽・文芸費	337,389	167,594
(3)設営・舞台費	124,500	109,563
(4)謝金・旅費・通信費	95,020	137,371
(5)宣伝・印刷費	166,840	118,563
(6)記録費	200,000	20,000
(7)保険料	0	0
(8)企画制作費	0	9,030
合 計	973,749円	632,121円

※ 予算計上後、熊本市健軍文化ホール助成事業として採用されたためホール代および付属設備代が助成されたことと、映像撮影代が無料になったため大幅な支出カットとなった。

収支決算書

申請者： (音楽家名 志娥慶香)

事業名： 志娥慶香ピアノリサイタル

【 収入 】	項目	単価	数量	金額(円)	内訳
	入場料(前売一般)	2000	182人	364000	
	入場料(当日一般)	2500	13人	32500	
	入場料(前売学生)	1500	4人	6000	
	助成金等	50000	1式	50000	(見込み) 熊本市健康文化ホール助成金
	〃	100000	1式	100000	熊本放送文化振興財団助成金
	物販売上収入	64100	1式	64100	別紙参照
	自己負担金	15521	1式	15521	自己資金
	合計			632121	

【 支出 】	項目	単価	数量	金額(円)	内訳
	設置音楽楽	46000	1式	46000	展示写真パネル代
	設置音楽楽	58703	1式	58703	衣装代
	設置音楽楽	4860	1式	4860	衣装クリーニング代
	設置音楽楽	36000	1式	36000	ピアノ2台調律
	設置音楽楽	7594	1式	7594	シヤスラック著作権使用料
	設置音楽楽	70000	1式	70000	ポスター・チラシ・チケットデザイン費
	設置音楽楽	54000	1式	54000	プログラムデザイン費
	設置音楽楽	35534	1式	35534	プログラム印刷費
	設置音楽楽	62485	1式	62485	ポスター・チラシ・チケット印刷費
	設置音楽楽	1760	1式	1760	資料コピー費
	設置音楽楽	32192	1式	32192	広告掲載費(ボコサ、熊日プレイガイド、フェイスブック)
	設置音楽楽	5400	熊日プレイガイドチケット販売手数料(売上の10%)	5400	
	設置音楽楽	70000	熊日プレイガイド	70000	
	設置音楽楽	23880	ゲスト出演費・編曲料	23880	
	設置音楽楽	9900	ゲスト航空券代 東京-熊本-東京	9900	
	設置音楽楽	26200	ゲストCD売上代	26200	
	設置音楽楽	13400	出演者宿泊費	13400	
	設置音楽楽	22263	営業カソリン代・駐車場代	22263	
	設置音楽楽	15000	案内郵送用の切手代	15000	
	設置音楽楽	7920	受付業務委託(コモボアートプロジェクト)	7920	
	設置音楽楽	20000	出演交渉費(東京宿泊費)	20000	
	設置音楽楽	9030	写真撮影費	9030	
	設置音楽楽	632121	封筒代・梱包材・インクなど消耗品費	632121	

文化

ファクス 092(711)6243
 メール bunka@nishinippon.co.jp

回掲載

を取られちまっ
 を取られちまっ
 やさしい悪魔
 取ってかわり
 っっていったん
 目の男のフルー
 イーはマディ・
 の「ガット・マ
 ・ワーキン」を
 い。私自身はど
 に目をかけても
 人間ではないの
 ぶられなかった。
 、二日も早く退

文化短信

▶山下光鶴(てるかく)による
 ギターリサイタル 24日午後3
 時。福岡市早良区西新の西南コ
 ミュニティーセンター(西南学
 院大東キャンパス)。長崎市出身
 でベルリン在住の山下光鶴が、
 ダウランド「涙のパパーヌ」や、
 自ら作曲した作品を披露する。
 父は、世界的に活躍するクラシ
 ックギタリストの山下和仁。チ
 ケット2000円など。すたじおG
 =092(406)7151。

▶舞台「たのかんさあレンジ
 ャー」 27日～3月3日の計5
 公演。宮崎市船塚の県メディキ
 ット県民文化センター(県立芸
 術劇場)。「田の神さあ」の像が
 ある寂れた町で、男性4人が町お
 こしのため、ご当地キャラクター
 「たのかんさあレンジャー」
 を思いつき、試行錯誤を続ける。
 県立芸術劇場のプロデュース公
 演「新かぼちゃといもがら物語」
 の第3弾。作は小説家、俳優と
 しても活躍する成井昭人。一般
 3500円、25歳以下1500円、ペア
 6000円(前売りのみ)。チケッ
 トセンター=0985(28)7766。

フィンランドの風景を音に

27日、熊本でリサイタル



近況往来
 作曲家・ピアニスト 志織慶香さん

フィンランドに魅せられてい
 る。2016年3月、文化交流で
 初めて訪れ、冬の夜明けを目にし
 た。「川は凍って、風がごうご
 う吹いているのに、空が青く美し
 い。自然の息吹に感動しました」。
 それ以来、毎年フィンランドに出
 掛け、季節の光景をイメージした
 曲作りを重ねてきた。夏の白夜、
 森の豊かさ…。27日に熊本市で開

くピアノリサイタルで披露する。
 日本では入手しにくいフィンラ
 ンド民謡の楽譜も、現地の友人か
 ら送ってもらった。フィンランド
 に行くとき各地で演奏を行う。今年
 は日本とフィンランドの国交10
 0周年。「西国の小さな懸け橋に
 なりたい」と意気込む。
 熊本を拠点に音楽活動を続けて
 おり、熊本県八代市出身の遠山昇
 司監督の要請で映画音楽を手掛け
 たこともある。2年前に東京でフ
 インランドの冬をイメージした曲
 を演奏した際、アニメディレクタ
 ーの目に留まり、TVアニメ「宝
 石の国」の音楽にも携わった。和
 楽器の編曲など「新しいものに手
 を広げていきたい」と話す。
 リサイタルは27日午後7時、熊
 本市東区の市健軍文化ホールで。
 一般2千円(当日券は500円増)
 など。同ホール=096(3668)
 1221。

歯科医院では入れ歯は 超音波で洗浄。



LIFTE

〒114 東京都葛飾区, JPN

- ライブランド
- チャンネル
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信
- ライブ配信

北沢映画館はここから

ライブ配信して見たいライブ配信のイベント

北沢らしいライブ配信を配信したい

5月30日(水)から配信！北沢の夏の夜を配信してください！

Twitter
Facebook

【北沢イベント】ピアノで体感するライブランドの風景

2019.2.15

Music イベント カルチャー イベント ライブランド

コメントを書く

ライブ配信

Twitter icon

Facebook icon

YouTube icon

Instagram icon

ヘルシキには見所がたくさんあります。自家焙煎を行なっているこだわりのカフェや、外観内装に圧倒される図書館、改装されたデザインショップ、雑貨店、コミニケーショの場にもなっているマーケットなどなど。そこにリストに入れておきたいのが教会巡り。以前にLIFEでも紹介した神教の礼拝堂とも書かれる「カソッピ教会」の他にも、光の教会「ミュールクキ教会」、そして必ずライブランドに掲載されている岩の教会と書われる「テンペリアウキオ教会」も必見です。

※神教の礼拝堂「カソッピ教会」を紹介した記事はこちら

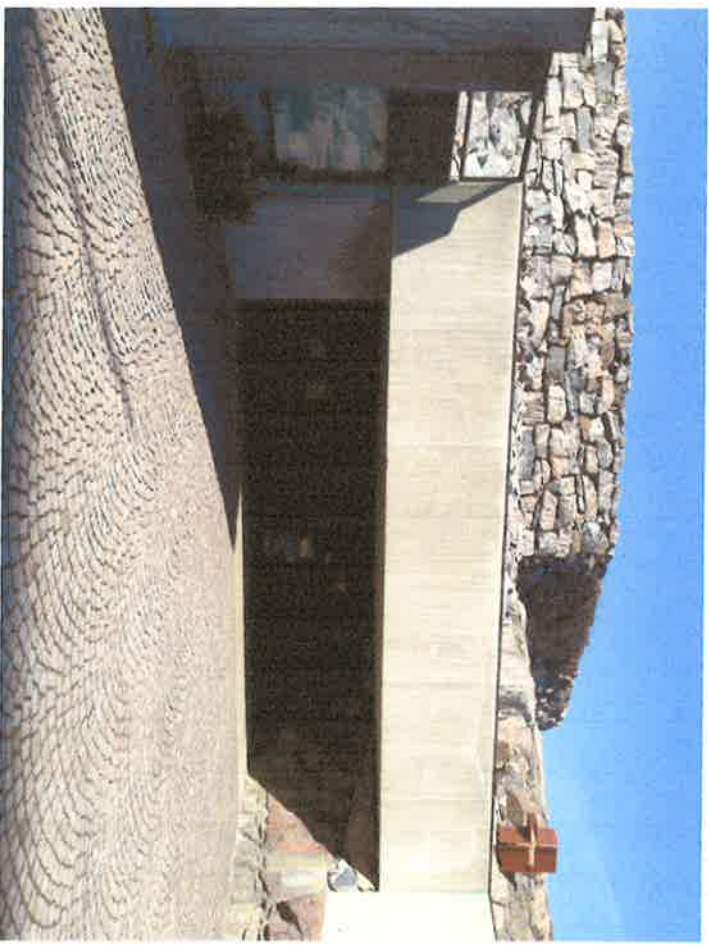
ヘルシキの市街地で観光を盛り上げるカソッピイベント

ヘルシキ市街地から街に向って徒歩5-6分あたりにあるカソッピKAMPFエリア。ここではヘルシキ市街地観光にありながら、ショッピングセンター、図書館、ホテルなどが集まる人気エリア。カソッピから徒歩でも出ているので、バスターミナルとしても便利です。| 掲載

Contents (Full)

- 1 岩の教会 テンペリアウキオ教会
 - 1.1 テンペリアウキオ教会が持つ、もう一つの顔
 - 1.2 ピアノと 活版屋がけいこピノライブランド
 - 2.1 心を奪われた雄大な自然
 - 2.2 繋がっていく緑、芸術を愛する装飾
 - 2.3 ライブランドの自然にインスピレーションを授ける
- 3 活版屋デザインリアル〜北沢・ライブランドの風景@熊本市産業文化ホール
- 4 アラビア
- 4.1 配信

岩の教会 テンペリアウキオ教会



このテンペリアウキオ教会は、外観から分かるように、岩をくりぬいて作られています。内観はさらに素晴らしい、むき出しの岩、光を取り込むためのガラス、そして銅で構成されています。この教会が建設されたのは1969年のこと。実に70年の月日が経過していますが、銅の変色具合と、岩の色味がバッチリしていて荘厳な雰囲気をもたらします。

テンペリアウキオ教会が持つ、もう一つの顔



そして、この教会の特色がもう一つ。それは「音」。岩の凹凸、ガラス、そして壁が独特なバウンスをとることによって、コンサートホールに匹敵するほど豊かな音響を際立たせ、コンサートも多く開催されています。

この教会で日本人ピアニストがリサイタルをしたことがあるのをご存知でしょうか？

ピアニスト 志穂美香(しがけいこ)とコンサート



@Jun Inadome

志穂さんは、熊本県をベースに置く作曲家・ピアニスト。3歳から音楽教室に通い、作曲を始めたのは6歳(！)から。その後様々な楽器を演奏しながら音楽に慣れ親しみ、2001年から音楽家としての活動を始めた彼女にインタビューしたのは2016年のこと。ヘルシンキから電車で北面にお府洞様行った場所のヴィルヤツェルタと響く所にある、エーミル・セーデルロヴィツァ美術館で開催された、日本・フィンランド国際美術館「Realism of Movement Exhibition」で、当地のアーティストとコラボレーションをすることになったのです。これは、出席するアーティストから声がかかって実現したそうですが、幼少の頃から北の寒い国への憧れがあったこともあり、フィンランドのことは、ほとんど何と知らない状況で引き寄せられました。

心を奪われた雄大な自然



©Zen Kono

初めてフィンランドに志保さんが降り立ったのは3月。フィンランドではもうすぐ春の音が聞こえてきそうな頃。地点となったヘルシンキとは比較にならないほど巨大な自然が色濃くあるエリアで、志保さんが、まず言葉を覚えたのは鳥の音。

「産後の鬱っぽい娘、凍った川の上を羽風が走った瞬間のゴォーという今まで耳にしたことのない重々しい低音は、まるでソレバウスの交響曲のようでした。この地だからこそ生まれた出た音楽の美と運命したかのよう強が響き渡られました」と当時の記憶を志保さんは語ります。

繋がっていく歳、芸術を愛する姿勢



フィンランドでの演奏は、志保さんの想像以上の反響があり、繋がりがあって行き、2017年、2018年、フィンランドの様々な場所での演奏を行いました。そしてもう一つ志保さんがフィンランドで経験したことがあります。

それは、人々の芸術に対する姿勢。

フィンランドの人々は、芸術に対して真摯に向き合い、そして寛容です。例えばレストランで開催されるジャズライブを聴く姿勢、小さな街のギャラリーで開催される展覧会に足を運ぶ若男女の姿、僕も実際に現地で開催された演奏に佇む人々の姿勢を体験しました。国難など関係なく良いものは素直に評価する。こう行った姿勢は多くのフィンランド人が持っている基本の感覚のような気がします。そして芸術が生活に身近というのもフィンランドの良さの一つ。



志保さんも、自身がフィンランドでの体験をどう表現します。

「日本から来た名前も知らない作曲家の曲を興味を持って聞いてくださって、日本に想いを馳せてくれたり、時には涙を流し、音楽や芸術を愛するフィンランドの人々のあたたかい心にも触れ感動しました。翌年からはコンサートを企画して下さったり、新聞に掲載されたり、毎年なん度も演奏を誘ってくださいたりと、いつでもウエルカムに感じてくださいるの嬉しかったです。教会や集会所にはどこでもピアノがあり、演奏会を取ったり、合唱団がたくさんあって、音楽が身近にある国なんだなと実感しました」。

フィンランドの自然にインスピレーションを受ける



志保さんが作曲する際にインスピレーションを受ける場所は「自然」。日本でも自然を肌身に感じることによって創作意欲が湧くそうで、自然に遊んだフイランソンの人も志保さんは作曲を行いました。志保さんがフイランソンの自然に遊んだ時期は3月中旬のまだ暑い時期、7月中旬、そして8月初旬の夏の3回。どの時期も変わった表情を持つフイランソンの自然は、志保さんにとって貴重な作曲の場所となりました。

「志保さんピアノリサイタル～北政・フイランソンの風景@熊本市健康文化ホール」



志保さんがフイランソンの自然に遊んだ時期は3月中旬のまだ暑い時期、7月中旬、そして8月初旬の夏の3回。どの時期も変わった表情を持つフイランソンの自然は、志保さんにとって貴重な作曲の場所となりました。



志保さんがフイランソンの自然に遊んだ時期は3月中旬のまだ暑い時期、7月中旬、そして8月初旬の夏の3回。どの時期も変わった表情を持つフイランソンの自然は、志保さんにとって貴重な作曲の場所となりました。

今回のピアノリサイタルは2部構成で、第1部は志保さんがフイランソンの自然を体験して創り上げた曲が中心。第2部では趣向を変え、フイランソンの民謡を志保さんとピアノデュオを結成している杉本ゆみさんと共に演奏します。

元々民謡や民族音楽に関心が強い志保さんは、フイランソンの自然に遊んで、語り継がれている民謡が持つ、素朴さ、そして美しいメロディーに感動し、今回演奏することを決めたそうです。

第2部の最後には、フイランソンの民謡も演奏されます。シャブ・シバウが作曲したこの曲は、フイランソンの民謡の中でも呼ばれるもので、ロシアから独立を勝ち取る旅の国民を鼓舞したという存在で、いまでもフイランソンの主要なリサイタルでは最後に演奏されるほどフイランソンの人々にとって大切な曲。今回のフイランソンの民謡演奏に関し、志保さんは、「日本・フイランソンの外交関係樹立100周年を記念し、今回は特別なアレンジをした演奏で日本とフイランソンのつながりを大切にさせていただきます。」と想いを寄せます。

「志娥慶香ピアノリサイタル 北欧・フィンランドの風景～冬と夏～」

フィンランドへの想いと風景が詰まった作品展

本誌連載中のケイコフの映画音楽がいっぱい！
でおなじみの作曲家でピアノニストの志娥慶香さん。彼女が3年前から毎年訪れている「フィンランドの風景」をテーマにしたピアノリサイタルが今月開催されます。

きっかけは2016年。フィンランドの美術館で行われる展覧会でコンサートをしなしかと声をかけられ「行きませう」と即答。オーブニングセレモニーやソロコンサートで演奏することになり、熊本の風景を曲にした自作曲「蘇峰」や、日本の曲など日本と自身を伝えた曲を演奏したそう。

このソロコンサートで印象的な出来事。「ミリアの難民の方が4～5人聴きにいられていて「暴力を受けたりものすごく辛い思いをしてフィンランドまでやってきたけれど、久しぶりにコンサートを聴いて、ケイコの演奏を聴いて傷ついた心を癒された。ありがとう」とコンサート後に館長さん経由で聞きました。その時、とどろく涙があふれてきて、彼女たちは今どこにいるかわからない、一瞬一瞬だったんですよね。人のために音楽家として何かできるんだらうという気持ちが目覚めた瞬間でした。

フィンランドへの2回目の訪問は2017年8月。この時も美術館や教会で演奏。「日本では誰もが知っているふるさととの原風景の曲です、と言って「ふるさと」を弾いて、その間にフィンランドの第2の国歌と言われている「フィンランド賛歌」を弾いたんです。フィンランドへの感謝を込めて。そうしたら、お客さまが泣かれて……。この曲に対する想いがとても強いらしいのです。この時、音楽を通じて



▲チラシにも使用されている美しい写真。左は甲斐野一選手の写真で、フィンランドの風景があるコケキ川、氷点下の大気に輝く湖、満月、その光を染め上げた水面。右上は北極星が舞上りに……。という景色。当日配布のパンフレットにもフィンランドの風景を掲載されるそう。右は前掲のさんによる同様の写真で、1年をかけて同様の四季を志娥さんの音楽制作過程とをリンクした作品制作中。その中から数点をピックアップして当日ロビーに展示予定。

2/27(水) 19:00開演
@熊本市健康文化ホール



で日本とフィンランドの小さな架け橋になれたらと思いました。

そして3回目の訪問が昨年の7月。フィンランドの音楽を日本で調べても情報が少なすぎるので、生の声を聞き、楽譜を集めてもっと紹介したいという思いで、フィンランドのダンスの文化も知りたいとダンスの合宿にも参加して1日8時間も踊り続けたそう。

そんな3年間の集大成のようなコンサート。第1部は、フィンランドの湖や川、森などからインスピレーションを受けての新作や、志娥さんのこれまでのオリジナル曲をピアノソロで。そして第2部では、バークリー音楽大学時代の同志でジャズやラテンのセンスを持つ作曲家でピアノニストの杉本ゆみさんと、フィンランドの曲を2台ピアノで演奏されます。今年は日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念の年。音楽でフィンランドの風を感じてみませんか？

取材 文/myuki sakaguchi

- 【第1部】 作曲・演奏：志娥慶香
「蘇峰」「コケキ川、夏の黄昏」
「青いモーメント」「雪白の輪舞」
「liquescentius」～TVアニメ「宝石の国」より～
- 【第2部】 編曲・演奏：志娥慶香、杉本ゆみ
ベルント・ヘンネン、タイン・ヴェスリン「クタン」
フィンランド民謡「北極星のもとに」
ワン・モノネン「サトウ」
フィンランド民謡「サウキヤルグン・ホルツ」
ジャン・シベリウス「フィンランディア賛歌」

- 【日時】 2月27日(水) 19:00開演
- 【会場】 熊本市健康文化ホール
- 【料金】 一般2,000円 高校生以下1,500円
*当日各500円UP
- 【問】 事務局 096-273-4362(上田)
- 【チケット】 熊本市健康文化ホール、熊日チケット



熊本の文化情報誌

トコサ?

KUMAMOTO ARTS GUIDE

2

Vol.167
2019
Feb
FREE

第44回九州公演

日本ファイル

in Kyusyu 2019

ピアノ：萩原麻未

指揮：藤岡幸夫

2/19(水) 市民会館シブーンホール

TOPICS

《トコサ注目公演》
「熊本合唱市場!!～信長貴富作品展Vol.2と共に～」
「志娥慶香ピアノリサイタル 北欧・フィンランドの風景～冬と夏～」

TICKET PRESENT
2/23(土)「本田浩平楽三味線コンサート」(熊本県立美術館ホール)
2/23(土)「パロククVSフレイム」(23) 熊本市・はあもにい / 24(日) 九州・ラポート
3/2(土)「池田重太郎エッセンス&ミニコンサート」(大谷茶屋本店5Fホール)
3/17(日)「宇土本舞祭」(宇土市民会館)



アメリカから帰国後の二〇〇九年、同じく熊本市
一〇〇周年記念人づくり基金の助成を受けたフ
メンコ、筆、ピアノによる、世界で唯一の異色コ
みさんと三人で異色トリオTRINITYを結成。フ
メンコ、筆、ピアノの林田紗綾さん、新筆奏者の藤川い
すみさんと三人で異色トリオTRINITYを結成。フ
メンコ、筆、ピアノによる、世界で唯一の異色コ
ラとして現在まで国内外で異文化の出会いと融合の
ステージを繰り広げている。

TRINITYの結成

アメリカ・バークリー音楽院への留学
二〇〇五年、熊本市制一〇〇周年記念人づくり基
金の助成を得てアメリカのバークリー音楽院に留学。
二〇〇八年、同音楽院John Goring Mayor (ハリ
ウッド映画音楽作曲学科)を首席卒業。在学中に映
画音楽作曲家としての音楽性を評価され、作曲家
ジョルジュ・トルリエ氏のメモリアル基金より
The Georges Delerue Scholarship Awardを受賞
し奨学金を得る。カーネギー・ワイルリサイタル
ホール(ニューヨーク)やバークリーパフォーマンス
センター(ボストン)等にてリサイタルや国際音楽
フェスティバルに出演。日本、アメリカやトルコに
て参加楽曲のCDがリリースされた。

音楽創造水守への登録

また同じく二〇〇九年、熊本市の「くまもと水
守」制度発足と同時に「音楽創造水守」として登録。
様々な活動を通して熊本の水や水文化を守り、水
の魅力を発信する活動を行っている。
二〇〇五年より二〇〇八年、留学のためアメリカに
在住したが、それまでの人生のほとんどを熊本の水
で育った彼女にとって、海外の水が肌にならず、そ



TRINITY
(フアメンコバイレ林田紗綾、新筆藤川いすみ)

ジャンルを超えて異文化融合の世界を拓ける

作曲家・ピアノスト 志媛慶香さん

平成二〇年の第四一回信友社賞受賞者三名の中
の一として、作曲家・ピアノストの志媛慶香さん
選ばれた。志媛さんは、県バドミントン協会副会長の工
藤勇参さん、郷土史家の堤亨彦さん。
信友社賞とは、一九七四年に創設された公益財団法人
信友社が、県内の学術・文化・スポーツなどに優れ
た功績があった個人・団体を毎年顕彰しているもの。
私は自分の趣味のピアノばかりで以前から志媛慶
香さんのことを知っていたので、今回の受賞を嬉し
く思い、「本人から提供頂いた資料を元に、改めて
志媛慶香さんの経歴や活動内容をここに紹介させて
頂くことにした。
志媛慶香さんは、二歳より音楽教室に通い、六歳
で作曲を始める。初めて感動を受けたのは小学生の
時に映画館で観た「E.T.」の映画音楽だった。中
学生時代は吹奏楽やオケストラやクラリネットを
学生時代はロシアンバンドでキーボードやアレンジを
担当。卒業後はOLとして働きながらプロダクシ
ョン・ハートメタルやサイケデリック・トリップホッ
プバンドを結成し活動する。その後、アヒエント
ミュージックに傾倒。
二〇一〇年より音楽家活動をスタート。シンセサ
イズム奏者として即興音楽ユニットを結成し、芸術
家らと前衛パフォーマンスを行なう。同時に、作曲
家としてラジオ番組の音楽制作に関わる。また、石
見神楽と和太鼓の音に衝撃を受けたのを機に、日本
の音に目覚め、和楽器の作品をまかせるようになり、
県内の和楽器奏者の編曲にも関わるようになる。

鮎川 久雄

れば体と心へ大きなストレスとなり、生まれ育った熊本の水が恋しくてたまらなかつた。

帰国して間もなく、この強烈な思いを歌にしたオリジナル曲「みずのうた」を作詞作曲。ちょうど熊本市にくまもと水守「制度がスタートしたことを知り、人間の命の源である水、そして自分を育んだ熊本の水を世界にPRできるような音楽を創造し演奏ができればという思いから「音楽創造水守」として登録。

「みずのうた」はジャンルCD（歌：川原一紗・新



志嵜慶香 作詞作曲
「交響詩水の詩」初演の様子
(地域文化芸術創造事業～人づくり
証金コンサートVOL.1～TRINITY)

全編を通して流れる志嵜慶香さんの音楽が、希望を求めて一人海へ向かう女の漂う心を描き出す。
(第二回東京国際映画祭日本映画ある視点部門ノミネット)

●長編映画「プロジェクトA」(二〇一五年)

遠山昇司・丹修一監督
舞台は、八代、高森、そして東京。三人の男女の現在と過去の記憶が交差し「エトピア」へと向かう魂の物語。
全編を通して志嵜慶香さんがサウンドトラックを担当。アメリカン国際映画祭二〇一五長編コンペティション部門審査員特別賞・第四回ヒューストン国際映画祭長編コンペティション部門審査員特別賞)

●短編映画「冬の蝶」(二〇一六年) 遠山昇司監督

五家荘の冬の日々。生まれ育った実家。眠ったままの祖母。匂い嗅ぐだけ不思議な蝶の思い
出がよみがえる……。
全編を通して志嵜慶香さんがサウンドトラックを担当。第三回テラメン国際短編映画祭シネコンペティション部門グランプリ受賞・イタリヤ第八回モンテカテオ国際特別賞受賞)

映画音楽の制作

志嵜慶香さんが音楽を担当した映画は国際的な評価を得ており、東京国際映画祭(日本)、ヒューストン国際映画祭(アメリカ)、テラメン国際短編映画祭(フランス)、モンテカテオ国際短編映画祭(イタリア)など数々の映画祭で披露されている。

●長編映画「NOT LONG, AT NIGHT」夜はながくなく
熊本市内から美しい海に囲まれた天草に至るロードムービー。
“海から来たのか。海に向かうのか。”漂う心が辿り着く、海へと向かう女の旅。

映画音楽講座の開講

ハリウッド映画の本場アメリカで映画音楽を学んだ知識や経験を活かすべく、留学から帰国後に始める。熊本市内各所の公民館での講座の他、福岡県筑後市・九州芸文館アカデミー(第四期)7月期「シガケイコ」の恋する映画音楽講座」や平成二八年度熊本市健康文化ホール「シガケイコ」のトキめく映画音楽講座」の講師を務める。

更に二〇一五年四月より熊本の文化情報誌「ピコサ」に映画音楽の魅力を語るエッセイ「ケイコ」の映画音楽がいつはいつか」を連載中。二〇一七年四月より西日本新聞「シネマイズ」に新作映画評連載を寄稿中。

その他コンサート活動など

志嵜慶香さんは映像作品やアーティストを支える作曲家である一方、演奏家としても国内外で常に

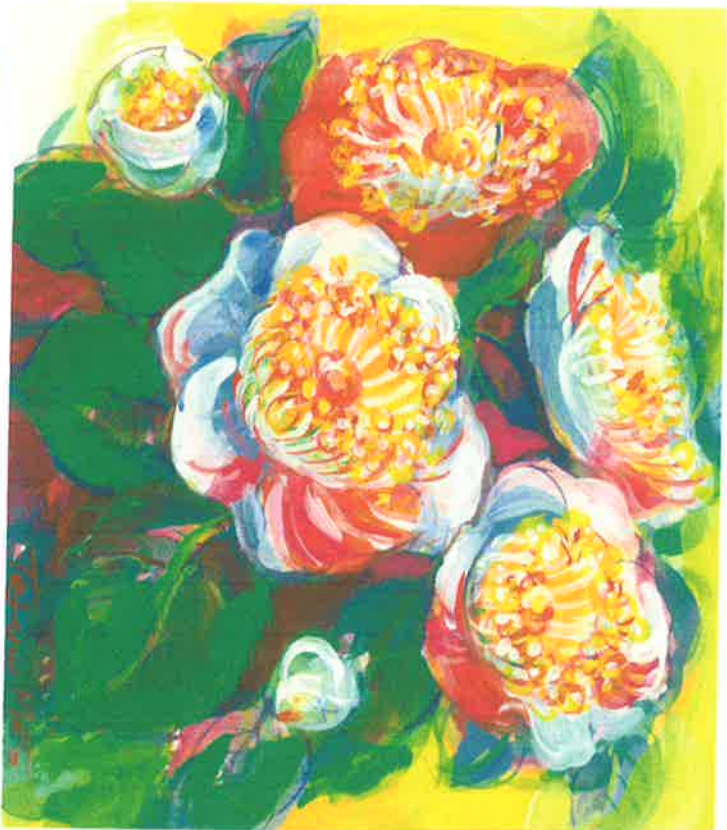


映画音楽講座にて



KUMAMOTO

NPO法人 くまもと文化振興会



季刊
No. 25

2018年12月

特集1
わたし、今、怒ってます

特集2
くまもとの音楽風景

創造的なアーティストに立ち、地域の文化振興にも貢献している。

二〇一六年三月にライオンズのエミル・セーブルクロイア美術館「REALISM OF MOVEMENT EXHIBITION」に招聘出演。オートニングセラモニーでの演奏、美術作家たちのコラージュコンサートは好評を博した。

二〇一七年七月には「RNRY」でスペイン・グラナダを再び訪れ、ビアンロ公演をエミル・セーブルクロイア美術館とライオンズ美術館の主催で行ない、音楽を通じ国際文化交流をしている。

二〇一八年七月に再びライオンズへ。四ヶ所でリサイタルを行ない、首都ヘルシンキにあるラベリアウキオ教会でも演奏した。

また、二〇一九年



ライオンズ公演時の現地新聞記事

二月二十七日(土)に熊本市歴史文化ホールにて「志姫 變音ピアノリサイタル〜北歐・ライオンズの風景〜」を開催予定。

「日本ライオンズ外交関係樹立二〇〇周年記念」を兼ねて、

以上、簡単に志姫變音さんの活動履歴のほんの一部を紹介してきたが、「自身のリサイタル活動はこれまで県外や海外が多く、熊本での公演はあまり無かつたようだ。今回の信友社賞受賞を一つの契機として、熊本でも志姫變音さんの存在が広く知られ、ジャンルを超えた音楽による地域の文化振興や交流の場が益々広がっていくことを願う次第である。

（あゆかわ ひさお／株式会社フオークス代表取締役 大人のピアノ入門（講談社）著者）



「志姫變音リサイタル〜北歐・ライオンズの風景〜」
2019年2月27日
熊本市歴史文化ホール